

国見地区

みんなが健康で元気に！



啓蒙地区

地域密着の活動を目指して

国見地区は越前海岸沿いの福井市西部に位置する人口約千人の地区です。5町内あり、全ての町内で毎週1回のシルバー喫茶(自治会型デイホーム)を運営しています。第1号店の小丹生町「つごい」が開店して18年経ちました。現在スタッフ約70名、年間開催日数は200日以上になります。国見地区は市内中心部に出かけるにも遠く、一人暮らし世帯や高齢者世帯等が多いので唯一の語らいの場であり楽しみであるようです。「気軽に立ち寄れる喫茶店」と自治会の協力を得てスタートし、5年後には全町内に開店することができました。また、男性の参加が少ないので、利用を促進するためにそば打ち道場を開設しました。昨年までは2町内で開設していましたが、今年1町内増えます。年に2回程デイホーム利用者の方に腕前披露も兼ねて、会食をしています。



食事サービスは、調理ボランティア19名が年4回(1回約110食)の配食を実施しています。昨年からはお飯を入れず、副菜の充実を図りました。管理栄養士さんが季節感と栄養バランスの整った食事メニューを考えています。のし紙に献立と『10食品群チェックシート』を印刷し、利用者の方にも日頃から健康に心がけていただくことと発信しています。配食サービス時には、福祉委員が安否確認を兼ね、その他変わった様子がないか尋ねます。定例役員会を毎月1回行い、民生委員デイホーム専任職員を含めた役員、福祉委員が問題提起や情報の交換を行い迅速な対応ができるよう努力しています。



国見地区社会福祉協議会



平成2年に発足した啓蒙地区社協は、新保、開発、丸山、長本、西開発の地域内37自治会を基盤とします。地区内ではマンションや商工業所などが多くなり、児童見守りや集合住宅の高齢者見守りなどで難しい対応も見受けられます。こうした状況のもと、地区社協の活動では、各種団体と連携できるものは共催で進めていくこととしています。

その事例として、地区自治連合会の防災訓練に、当地区社協が共催して実施した「緊急避難と救護蘇生の訓練」があります。何度受講しても戸惑うものですが、今回はじめて蘇生訓練を受けた方が、自宅で家族の蘇生が必要な状況に迫られ、無事、救急車に搬送できたとのこと。この話を聞くと、身近に起こる出来事なのだと感じます。

また、「ふれあい福祉まつり」は地区文化祭と併設して開催しています。が、昨年は、「健康測定コーナー」を設けたところ、これが大好評で参加者が列をなしました。

このほか、「啓蒙いきいきクラブ」では、月々のデイホーム以外に年2回の野外合同デイホームを開催して

います。合同デイホームや敬老会では、社協役員が余興や寸劇を行って、それが皆さんから期待されるまでに定着化しました。こんなイベントの1コマですが、地域の福祉活動にどこかで役立つてくれないかと、ひそかな期待をしている次第です。

啓蒙地区社会福祉協議会



◆ 次回は越廬地区と酒生地区を紹介します